

令和4年3月4日

## ウクライナ情勢に関して伝えたいこと

阪神さくら地区

団指導者 各位

隊指導者 各位

みなさんも報道でご承知の通り、ウクライナは現在激しい戦闘の下にあり、多くの人が犠牲となり、悲しみを背負い、恐怖に震える日々を過ごしております。私たちも心を痛めており、一日も早く平和が訪れることを祈るばかりです。

一方で、こういう悲しい時に私たちは何をすべきか、何ができるのか、についても考えを巡らし、実際に行動したいものです。つきましては、スカウティングに関わる者として、今すべきこと、できることについていくつか示したいと思います。それは、みなさんより、スカウトへ、あるいは地域社会に伝えてほしいことでもあります。

### ①スカウトに平和を尊ぶことを伝えてほしい

スカウトたちもテレビなどにより、この戦争について見聞きしています。どの国が悪いとか、誰が悪いとかではなく、紛争を解決するための戦争が、いかに残虐で、悲しく、何も生み出さず、虚しいものであるかということ。「隊長の言葉」などの機会を通じて伝えてください。話し合ってみてください。また、年長の部門では自分たちでできることを考えるきっかけを与え、自発的な行動を引き出すことにつながればと思います。私たちは、野外活動や班や組での活動を通して、どのような人間を育てようとしているのか、教育の目的は何なのかをもう一度振り返ってみましょう。

### ②世界のスカウト仲間の一員だということを伝えてほしい

ウクライナにもスカウト仲間がおり、また実際に支援のために立ち上がって行動している近隣国のスカウト仲間もいます。みんな「ちかい」と「おきて」を共有する仲間です。本運動は国境を越える運動であって、日本の私たちもその仲間の一員なんだということをスカウトに伝えてください。そのことは教育活動方針にも謳われている「スカウトであることの誇り」にもつながっていくのだと思います。

ウクライナでの戦争における世界のスカウト仲間の行動の紹介(WOSMのホームページ)

<https://www.scout.org/Ongoing-Scouts-Emergency-Response-in-Ukraine>



そなえよつねに  
ボーイスカウト

### ③WOSM や日本連盟の声明を伝えてほしい

世界スカウト機構（WOSM）は、2月24日付で「WOSMのウクライナ情勢に関する声明」を発表し、ホームページに公開しました。

<https://www.scout.org/WOSM-statement-Ukraine>

また、日本連盟もその声明を支持する旨をホームページで発表しています。

<https://www.scout.or.jp/member/wosm-statement/>

声明は以下の内容です。

『世界スカウト機構（WOSM）は、ウクライナに対する軍事作戦とこの地域の全体的な治安悪化に深い懸念を抱いています。いかなる紛争も、国際法の原則に則り、人権と国家の領土保全および主権を最大限に尊重して解決されるべきです。

キエフに拠点を置くユーラシア地域サポートセンターは、2020年からバーチャル運用に完全移行し、海外スタッフは各国で活動していますが、ウクライナに駐在するスタッフやボランティアと密接な連絡を取り、同国のスカウト連盟とも密接に連絡を取り合っています。

WOSM は、世界中の、特に紛争が発生している地域において、子どもの権利を含む平和、正義、人権のために立ち上がり、誇りを持ってきた長い歴史を持っています。WOSMは、すべての問題に平和的に対処する外交を優先させることにより、敵対行為の即時停止と、子どもを含むすべての民間人の保護を確保するために、あらゆる努力がなされることを希望します。』

この声明は、スカウトやその保護者、また機会があれば広く地域社会にも伝えていただきたい事項であります。

また、緊急人道支援活動を支援するため、WOSM のスカウト寄付プラットフォームにて寄付を受け付けていることもお知らせします（詳細は HP 参照）。

この悲しい戦争に対して、スカウト運動に関わる私たちがどのような振る舞いをしたのかは大変重要なことだと思います。スカウトの教育にどのように影響を与えるのか、教育の目的を今一度思い起こして考えていただけましたら幸いです。また、本運動の価値を高め、平和な世界の実現に少しでも力を尽くしたいものです。

阪神さくら地区 コミッショナー  
山本 浩介



そなえよつねに  
ボーイスカウト